

敬礼について

「艦船と安全」11月号の船乗り風物詩に、「源内先生」というニックネームで学生達から敬愛された元海軍兵学校教官 平賀春二氏の「敬礼」に関する後述の原稿が掲載されていたので引用紹介する。

【敬礼】

(1) 拳手の礼

この拳手の礼 (Hand salute, Salute by raising the hand) の起こりについては諸説がある。

- ① ローマ時代、決闘に勝った勇士が、女王や王女から褒美を賜るとき、美しさに目がくらまないように「右手で両目を覆った」ことに始まる。
- ② ローマ人の着衣はゆったりしていて、袖の下に短刀などを簡単に隠し持ち得たので、上長に向かって右手を示して、「徒手空拳で、敵意のないことを示して」敬礼としたのに始まる。
- ③ ヨーロッパの中世時代、騎士 (Knight) は全身を鎧兜で完全に包んでいた。上長に対する時は「兜の面覆いの部分を右手で押し上げて顔を示す」という仕草が「敬礼」となった。
- ④ ネルソン時代には「脱帽後右手を前頭部に当てる」の敬礼であったことに始まる
- ⑤ 19世紀に入ると「脱帽の代りに帽子を右手の指先で、ちょっと押し上げる」のが敬礼となった。

(2) 捧げ銃 (つつ)、捧げ刀 (とう)、Presenting arms. など武器を捧げ持つだけにとどめて、敵意のないことを示すことが、敬礼となった。

(3) 舷門の礼、Piping the side. 艦長 (又は然るべき人) を艦に迎える時や送り出す時、「舷門において号笛 (Boatswain's Pipe) を吹いて行う礼式」は、艦隊内の各艦の間の通信が、とかく不如意であった時代に艦長達を旗艦に招集して会議や命令の伝達を行うことが多かった事から起こっている。その会議などの後には宴会が付き物で、相当にご機嫌の艦長の帰艦の際は、送り出す側も、引き取る側も相当気を遣ったようだ。ましてや深夜であるとか海が荒れている時などには、格別大事に扱ったのである。そのような場合、まず艦長を吊り腰掛け (Boatswain's chair) に乗せ、次に帆桁の先端の滑車装置を利用して腰掛けごと艦長を中空に吊り上げ、次に帆桁を所要の方向に回しておいて、中空の腰掛けをゆっくり降ろしてから艦長を解放した。それに至るまでの一連の作業の指揮命令は、水夫長が一作業ごとに吹きかける号笛によって行われた。そこから今日の「舷門の礼」による号笛の曲は、昔の吊り上げ下げ作業時の曲に由来する。

- (4) ボートの敬礼、櫂（かい）立て、**Tossing oars**. 漕手は号令により一斉にオールを垂直に立て、艇長のみ起立して挙手の礼をする。「本艇は運動力すでに無く、武器を構える者もまた無し」の意を表示することが「敬礼」となった。なお「櫂立て」は「敬礼」よりも「万歳！」の気持ちを表現する場合に行うことが多い。
- (5) 降旗、すなわち「旗を降ろす」ことには、二つの意味がある。
一つは「降伏」または「艦の明け渡し」を意味する。この場合を **Striking the flag** という。**Strike** とは「おろす」・「おろして撤退する」の意である。
二つ目は「敬礼」を意味するもので **Dipping the flag** という。**Dip** とは「ちょっと下げて、またすぐ上げる」の意である。船と船、又は船と陸上の施設との間に行われる。なお、**Dipping** には **Dipping** でもって答礼するのが原則である。
- (6) 半旗の礼、**Flag at half mast**. 慶弔の意志表示。旗を一度マストか旗竿の絶頂まで上げておいて、すぐにこれを通例旗幅程度降ろして止める。旗を降ろしてできた空間に、人を奪って行った悪魔の旗が目には見えないが翻っていることを示す。要するに、半旗は「我ら今般悪魔に敗れたり」の意を示すことが同時に慶弔の意志表示となった。
- (7) 傾桁の礼、**Yards a perk**. 帆船の行う慶弔の礼式。入港中、帆船の各マストの帆桁（Yard）をすべて同一の角度に傾斜させておく礼式。帆桁を傾斜させる代わりにX字型に交差させておくこともある。Xは十字架に通ずるからである。ただし、帆桁は長大で下方のものは舷外に大分突き出すので、港内に多数の帆船がもやっているとときには、帆桁が他船の邪魔となるので、「斜桁する」場合もあるがこれは別である。

（開発官付言）

余話；昭和天皇が観艦式の折り、軍艦に行幸された際に、艦長は部下に注意をした。

「天皇陛下に対して挙手の敬礼はするな！その理由は、陛下がいちいち答礼されることになり不敬である。したがって不動の姿勢で臣下としての礼をなせ！」（なるほど！）

教訓；敬礼の原点は、敵意のなさの意思表示である。したがって欠礼は、敵意あるいは翻意の表れと採られても仕方がない。

以上